

21J-pm14

患者と対話するワークショップが保険薬局薬剤師の統合失調症患者に対するスティグマ是正に及ぼす効果

○藤井 知郎¹, 半谷 眞七子¹, 亀井 浩行¹ (¹名城大薬)

【目的】本邦における統合失調症患者に対するスティグマ（偏見・差別）は、諸外国と比較しても強く、一般市民だけでなく医療者のスティグマも依然として根強いことが指摘されている。中でも医療者の持つスティグマは、統合失調症患者の服薬・受診行動の大きな妨げとなることが知られている。今後、入院から外来中心の医療にシフトし、保険薬局薬剤師が統合失調症患者と接する機会が増大することから、保険薬局薬剤師が持つスティグマの是正が急務である。そこで今回、我々は、統合失調症患者に対する保険薬局薬剤師のスティグマが患者との対話を用いた薬剤師教育プログラムを行うことで軽減されるかを検討した。

【方法】2018年9月に開催された第2回日本精神薬学会総会・学術集会のワークショップ「精神疾患患者さんの声を聞こう！～偏見をなくすために～」(WS)に参加した保険薬局薬剤師19名の内、同意が得られた10名を対象に、スティグマの評価指標であるワトリーの社会的距離尺度(WSDS)及び精神疾患の考え方(IATM)を用いて、WSへの参加前後で比較した。

【結果】参加者10名の平均年齢は45.8歳、男性5名、女性5名、平均薬剤師経験年数は16.4年であった。WS参加前後での合計スコアの平均は、WSDSが 13.1 ± 3.8 、 11.3 ± 2.9 、IATMが 43.1 ± 5.6 、 44.7 ± 5.2 であり、WSDSにおいて有意な改善がみられた($p=0.017$)。

【考察】本WSによって患者との社会的距離が短縮したことから、患者との対話を用いた教育プログラムが保険薬局薬剤師の統合失調症患者に対するスティグマ是正に有用であることが示唆された。